

令和4年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○SSH3期目の指定のもと、SSHを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図り、資質・能力「5C」(*)を身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成を目指す。</p> <p>○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。</p> <p>○新学習指導要領を踏まえた教育活動を推進する。</p> <p>*5C 本校では、グローバル化とサイエンスの発展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の5項目として育成を目指している。</p> <p>①Critical thinking and problem solving（批判的思考力と問題解決） ②Creativity and innovation（想像力と革新） ③Collaboration（協働力） ④Communication（コミュニケーション力） ⑤Challenge（挑戦力）</p>	<p>(1) 「自主自律」ワンランク上の「文武両道」など、本校の特色や教育理念、またSSH3期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き、学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。今後は、入学してきた桃山高校生・保護者の期待に応えるべく、これまでの成果の上に立った、さらなる高みを目指した教育活動を展開していきたい。</p> <p>(2) SSH事業において、普通科・自然科学科ともども、GS探究の充実が図られるなど、探究的な学びが進み、その成果が着実に次世代で活躍する人材としての資質・能力の育成につなげることができている。今後は、3期計画の実践を着実に進め、SSHを学校の文化として定着させていきたい。</p> <p>(3) 組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、進路実現に向けて、学校全体で最後まであきらめない指導を行えた。結果、国公立大学や私立の大学に、多くの生徒が現役合格でき、難関大学へも積極的にチャレンジしてくれた。今後は、生徒の学びの志向性にさまざまな刺激を与え、より高みを目指す進路目標にも積極的にチャレンジできるような組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を継続していきたい。</p> <p>(4) 新学習指導要領や新しい大学入試制度に対応するため、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、記述力や英語の4技能の向上に向けた取組など、組織的に計画的に取組を推進することができた。今後は生徒の多様性に目を向けた、「個別最適化した学び」の構築や、学びにおけるICTの利活用を進めていく必要がある。</p> <p>(5) コンプライアンス意識の低下による問題事象が発生したことを受け、さらに意識を高める取組を進めていきたい。</p>	<p>(1) 「主体的学習者」の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、学びにおけるICTの利活用、生徒の多様性に目を向けた「個別最適化」した学習指導等の研究・実践を進め、桃山高校の学びのデザイン再構築を行う。</p> <p>(2) より高みを目指す進路目標にも主体的・積極的にチャレンジできるような組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を継続して展開する。</p> <p>(3) SSH3期3年目である今年度も、「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を、教育活動全体に落とし込み、全校体制で実践していく。</p> <p>(4) 生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。</p> <p>(5) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、桃山高校働き方改革を進めるとともに、高いコンプライアンス意識をもった教職員集団を形成できるよう努め、生徒にとっても教職員にとっても魅力ある学校を作る。</p> <p>(6) 感染症拡大に伴う教育への影響が長期化する中、衛生管理をしっかり行い、安心・安全な学習環境を確保するとともに、学校における学びの経験を保障する観点も大切にして、一つ一つの教育活動を再点検しながら学校運営を行っていく。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	「主体的学習者」の育成のための教育活動や授業改善の取り組みを支援する。	一人一台端末導入学年である令和4年度入学生について、教育活動における効果的な活用方法や工夫を教科を超えて共有するための取り組みを行う。		
		学年部、保健部及び各教科と連携し、特に学習に際して課題を抱える生徒に対して、補充等を通してきめ細かく対応する。		
生徒指導部	生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。	球技大会 ○生涯にわたってスポーツを楽しめる能力や態度を培う。 体育祭 ○生徒会を中心に、生徒全員の創意工夫を生かした自主的な取り組みを行い本校のよき伝統を継承する。		
		文化祭 ○生徒一人一人の自主性を養い、HR・部活動・生徒会の活動を充実させ、自主的集団として成長することを目的とする。		
		部活動への積極的参加を促し、加入率の向上と活動実績の広報活動を行う。		
進路指導部	国公立大学総合型選抜に出願する生徒に対する指導体制を充実させる。	国公立大学総合型選抜出願事前説明会をおこない、出願準備から大学入学に至るまでの本校の指導や取組について周知徹底する。		
	「可能性の拡大」「適性の伸長」「動機の高揚」に向け、第3学年部と連携し、生徒の進路希望や進路実現に向けての課題についてよりきめ細やかに情報共有を行う。	3年生進路検討会の実施回数を増やし、生徒の進路希望実現に向けた課題や指導のあり方を全職員で共有する。		
教育企画推進部	「主体的学習者」の育成に向けて、「個別最適化」した学習指導等を実践するために、ICT環境を整備し、利活用を図る。	ICT機器の整備、使用基準の作成、研修会等を実施する。ICTに関する現状の校内ルールを見直し、機器やアプリケーションをより活用しやすい環境を作る。ひとり一台端末の導入に伴い、活用についての研修をすると共に、校内での使用ルールの明確化を進める。		
	本校を第1志望として選択してもらうよう、広報活動をより充実したものにする。	説明会や学校案内の内容など、見直しを行い、より本校の魅力を伝えることができるよう改善する。多くの中学生、保護者が見るホームページの内容をより充実させる。		
	「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を教育活動全体に落とし込み、SSH3期3年目の事業を全校体制で実施する。	SSH3期申請内容に基づいて令和4年度事業計画の取組を実施し、効果検証と成果普及を行う。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
保健部	校内美化を徹底することで衛生管理をしっかり行い、生徒の環境美化及び衛生管理の意識を高め、環境保全能力を向上させる。	月1回の大掃除の際には、教室及び廊下の壁に付着した埃や窓の蜘蛛の巣を取り払う作業を学年ごとに実施する。また、日々の清掃活動についても1週間のうち水曜日の清掃を、より丁寧な清掃活動実施日とする。		
		美化・保健両委員会の活動を充実させる。それぞれの活動により校内学習環境の衛生管理について啓発するとともに、感染症拡大防止等に向けた個人の責任ある行動を促す。		
		安全点検を学期ごとに実施して、事務部と連携して改善する。		
図書部	「5C」を身に付けた人材の育成、「主体的学習者」の育成に必要な桃山高校の「学び」を探究する。	図書委員による自主的、積極的な図書館運営（班活動、読書月間における各種行事の立案と実践など）を行う。		
		課題研究をはじめとする各授業での図書館の活用や読書感想文集の発行、教職員の図書推薦などの様々な仕掛けを試みる。		
		「5C」に関する図書を充実させるとともに生徒に向けて紹介する。		
第1学年部	新教育課程の初年度となる学年として、学校生活の様々な場面で、主体的、自律的に行動できる生徒を育てる。	ホームルームや面談など、さまざまな場面で、学習手帳を活用し、個々の生徒の特性を把握しながら、生活指導、学習指導を継続的に行う。		
第2学年部	人とのつながりを大切にし、協働して取り組むことで共に成長し合える集団を作る。その中で、生徒たち1人ひとりの他者を尊重する心や自己肯定感を育む。	各担任は生徒たち1人ひとりの気持ちに寄り添い、主体的学習者である生徒たちの成長を促す。学級や個々の生徒の状況を日常的に交流・共有し、複数の教員が多角的に生徒と関わる。		
		GS探究Ⅱ、LHR、学年集会、学校行事、学年通信等を連動させ、個々の生徒の見方・考え方を学年全体で共有し、学年/学級集団への帰属意識を高めるとともに、価値観の多様性に気づくきっかけを作ることで、学年/学級集団がさらに成長するための機会とする。		
		生徒たちが、進路実現までの2年間に見通しを持ち、主体的に進路選択ができるような指導を充実させる。特に進路実現に向けた課題設定を、生徒たち自らが行うような仕組みを作り、主体的な学習行動を促す。		
第3学年部	価値観の多様性を通して、自己尊重の精神や主体性を育み、自己を確立しながら進路実現に向けて共に成長し合える集団を作る。	GS探究Ⅲ、LHR、学年集会、学校行事、学年通信等を連動させて、個々の生徒の見方・考え方を学年全体で共有し、価値観の多様性に気づかせる。		
		進路実現に向けた長期的な学習を意識させる。模試や面談等を活用しながら、節目ごとに計画を立てさせたり、自己分析を行わせたりすることで、主体的な学習行動を促す。		
		教員自身の人となりを大切にし、生徒一人一人の内面と深く関わりながら、日々の声掛けや面談等を行い、主体的学習者をサポートする。個々の生徒の学力や希望進路を進路部や教科担当者と日常的に共有し、複数の教員が多角的に関わる。		
事務部	限られた予算を効果的に運用し、安心安全を最優先に予算編成を行う。	安心・安全に向けた設備・施設の整備。		
		I C T化の効果的な運用、長寿命化改修工事の円滑な調整、教科指導や行事等の充実を図る。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。	「主体的・対話的で深い学び」の授業スタイルを通して、ICTを活用した研究・実践を進め、技術や方法を共有し、「チーム国語科」として効果的な指導を行う。		
		生徒の多様性に対応した「個別最適化」した学習指導を行うことによって、主体的に学習を進めるための具体的方法と考え方を身につけさせる。		
地理歴史科 公民科	興味・関心と学習意欲を高め、自ら学ぶ力、考える力を育成する。	板書、プリントを充実させ、資料（写真、統計、史料等）や視聴覚教材を有効に活用する。		
		ICTを利活用した授業やアクティブラーニングの授業を研究・実践し、「主体的・対話的で深い学び」による思考力・表現力等の育成を図る授業改善に取り組む。		
数学科	学習意欲の向上を基盤にした主体的学習者の育成を目指し、数学的・論理的思考力の獲得をとおして、実践問題に積極的に取り組む態度を養成する。	小テスト、定期考査、模擬試験の到達度目標を早期に提示することで、学習計画の作成を習慣化させる（手帳およびチェックシートの活用）。目標へ向けた取り組みの過程においては、個々の生徒の学習方法等を生かすように工夫する（個別最適化）。また、習熟度の高い生徒向けには数学検定を中心として、数学オリンピックや数学コンテストへの参加を促し、授業とは異なる観点で数学に触れる機会を増やす。		
		深い学びにつながる発問の仕方や視覚的教材の利活用を今年度も継続して検討する。また、提出されたレポートや記述形式の添削課題を、ICTを利用することによって生徒間での共有を図り、協働学習などをとおして学びを深め、数学的、論理的思考力を洗練させる。		
		新学習指導要領の実施1年目を踏まえ、指導計画や評価（従来の評価と観点別評価）の整合性について昨年度の試行を基に今年度は実践をとおして教科内で検討し確立する。		
理科	基礎的な知識・技能を習得し、見通しを持って学習に取り組み、日常生活を科学する学修者を育む。	思考力・判断力・表現力を育むための実験・実習を積極的に行う。		
		観点別評価法をさらに研究し、「指導と評価の一体化」の観点から、授業改善を行う。 教材や授業を教科内外へ公開し共有する。		
保健体育科	体育・保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	具体的な知識と汎用的な知識とを関連させて理解できるようにするとともに、科学的知識を基に技能を身に付けたり、技能を身に付けることでその理解を一層深める等、知識と技能を関連させて指導する。また、1年生の授業においては、技能の向上に向け、ICTの有効活用を積極的におこなっていく。		
		自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的に解決したり、新たな課題の発見につなげたりすることができるよう知識を活用したり、応用したりして、思考し判断したことを、根拠を示したり他人に配慮しながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及びICT機器等を利活用して筋道を立てて伝えたりすることができるよう指導する。		
		愛好的態度及び健康・安全、公正、協力、責任、参画、共生について、汎用的な知識を関連させて指導することで、主体性を促し、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力を育成する。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
芸術科	音楽：新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。	主体的に音楽に関わり、感受する力を育成するため、表現、鑑賞のそれぞれの学習内容について、批評活動を積極的に取り入れる。		
	美術：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的に学習する生徒の育成に向けた授業となるように努める。	作品の校内展示や学校の諸活動と連携した取り組みを進め、美術やデザインと社会の関係性について考えたり、客観的な視点で自分の表現を見つめさせる授業にする。		
	書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、主体的な学習者の育成に向けた授業展開を行う。	主体的の書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組み、批評活動を積極的に取り入れた授業展開を行う。		
英語科	英語学習における「主体的学習者」を育成する。	授業、家庭学習を通して、主体的に英語力向上に取り組めるよう、ICTを効果的に活用するとともに、1年間の学習計画と効果的な学習方法を明確に示す。 教員による解説を簡潔にし、ペア・グループワーク、パフォーマンステスト等を通して生徒の英語の発話量・読解量・活動量を増やす。 従来から続けているパフォーマンス課題をさらに推進し、課題内容と評価の改良に取り組む。昨年度改良した即興応答、ディスカッション、リテリング式を可能な限り継続するとともに、これまで実施していなかった第3学年でもパフォーマンステストの実施を試みる。		
家庭科	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	講義や実習・実験を通して、家族の健康と衣食住についての知識を身につけさせ、実践する力を育てるように指導する。また、清潔に衣服を管理し、時には取れたボタンをつけ補修する程度の力を育てるため、被服製作実習を取り入れる。 消費生活について、経済のしくみを理解し、生活を管理できるように指導し、ロールプレイなどを行い、消費行動が環境問題に関わることを理解を深める。また、18歳成年年齢となることから、消費トラブルに巻き込まれないように、動画やICTを利用しながら巻き込まれた時の対処方法なども身に付けさせる。 乳幼児と高齢者の生活や福祉についても、ライフステージごとの心身の変化を「シニア体験」「マタニティー体験」実習により理解を深める。		
情報科	一人一台端末を活用したICT教育の初年度であることを踏まえ、ICT教育を担う主教科としての役割を果たす。情報教育を通して学びの自己調整能力を養い、生徒の実践的な情報活用能力を身につけさせるようにする。	一人一台端末と校内のコンピュータを連携させて学ばうように設計した実習を取り入れる。 実践的なパフォーマンス課題を取り入れ、観点別評価にも活用する。		
グローバルサイエンス科	教科間、または大学や外部との連携を通して、予測不能な時代で活躍するのに必要な資質・能力である「5C」の育成を図る。	第1学年の各GS科目の評価方法において、適切なパフォーマンス課題及びそれを評価するためのルーブリックを作成し、運用する。 第2学年のGS探究Ⅱにおいて、いずれの研究テーマでも共通する探究の過程を重視したカリキュラムを構築、実践する。 第3学年のGS探究Ⅲにおいて、探究活動を行うのに必要となる資質・能力5Cを高め、大学での学びに備えるための、カリキュラムを構築、実践する。		